

令和6年6月18日

沼田町議会議長 小 峯 聡 様

総務民教建設常任委員会
委員長 大 沼 恒 雄

総務民教建設常任委員会 所管事務調査報告

本委員会は、申し出た調査案件について調査を終了したので、その結果を次のとおり、会議規則第77条の規定により報告する。

記

1. 調査目的

地域資源を活用した生涯学習について

2. 調査の日程

令和5年	開	催	第1回～第9回委員会	調査報告内容検討
令和6年	1月23日		第10回委員会	調査報告内容協議
	同	2月6日	第11回委員会	調査報告内容協議
	同	2月15日	第12回委員会	調査報告内容協議
	同	4月18日	第13回委員会	調査報告内容協議
	同	4月26日	第14回委員会	調査報告内容のまとめ
	同	5月9日	第15回委員会	調査報告内容のまとめ

3. 調査結果

沼田町には化石をはじめとする自然史の資源、明治からの開拓の歴史を伝える本願寺駅通を含む歴史・民俗資料、炭鉱の遺構やクラウス15号蒸気機関車の産業遺産など数多くの地域資源が存在します。郷土に誇りを持つ町民気質を育てるために生涯学習活動における地域資源の活かし方を模索してきました。

貴重な歴史資料は、沼田町ふるさと資料館に長く収蔵され公開されていませんでしたが「沼田町文化財収蔵センター」へ移転し一般公開できるようになりました。令和5年10月12日に内部を視察したところ、新たに棚を設けて収蔵物を整理している状況は見られますが、施設全体の活用は今後の課題となっています。

また、令和5年度よりほろしんの森をメインフィールドとした「そらち自然学校」は豊富な自然、地域資源を素材とした体験活動に強みを持っています。そらち自然学校を活用する新しいスタイルの展開が大きなテーマとなりました。

地域資源を活用した生涯学習がさらに有意義なものになっていくよう次の意見を付して、調査報告とします。

(1) 文化財の収蔵と活用について

収蔵センターが整備されたとはいえ、貴重な資料を保存するための光や空調など収蔵環境に不十分な点が残されています。次の世代に確実に伝えるための改善を望みます。

施設内での展示についても工夫の余地が見られます。収蔵と展示のスペースを区分し、展示においては個々の資料が持つストーリーが可視化されることを望みます。

ゆめっくるのロビーなどでミニ展示として資料を活用する取り組みも始まっていることは評価できますが、テーマを変え定期的な開催をおこない、収蔵センター訪問への動機づけとする事が望まれます。

(2) 生涯学習とそらち自然学校の連携について

豊かな体験活動は、豊かなコミュニティ意識の向上につながり、現在の教育が抱える様々な問題解決の糸口となっています。生涯学習の推進は、自然体験に取り組んでいる「そらち自然学校」のプログラムを活用することで、幅広い世代のコミュニティを高めることが出来ます。自然体験を積極的に取り入れた豊かな生涯学習の実現に繋げることを望みます。